

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。皆様にはお健やかに初春をお迎えのことと存じます。旧年中は、当事業団に力強いご支援を賜りましたことを感謝いたします。

さて、最近、私はカミュの「ペスト」を読み直しました。この小説は、ペストの蔓延により様々なエゴがむき出しになる中であって、誠実に任務を果たすことで、又、利害や価値観を超えて連帯することで不条理に抗おうとする名もなき市民らを淡々と描いています。70年以上も前の作品ですが、そのストーリーは今回私たちが体験してきた生活や心理状態に重なり、古さを感じさせませんでした。

この2年余り、事業団は、新型コロナウイルス感染症により企業面接や実習ができないなどの制約の中にあっても、支援を諦めないこと、そのためにオンライン面談やVR（バーチャルリアリティー）活用による訓練等によって、障害のある方の就労支援を続けてきました。このことは事業団のパフォーマンス強化や職員の自信に繋がりもしましたが、如何せんコロナ禍の影響は大きく、令和3年度の新規就職者数は感染症拡大前の年度の実績に比べ大きく下回ると予測しています。

変異株感染などの心配はまだまだ消えませんが、街の賑わいや穏やかな日常は徐々に戻りつつあるようです。コロナ禍がわが国の経済に与えた打撃は東日本大震災を超えるという分析もありますが、障害のある方の就労意欲の高まりや企業の障害者雇用の動きは今後も止まることはないと思います。新年にあたり、事業団は、働くことで生きがいや喜びを感じてみたいと望む方を全力で支援するという決意を新たにしております。そのために事業団職員は（「ペスト」の主人公リユー医師のように）地域の支援者や企業と連帯しながら、誠実に自らの任務を果たしていく所存です。

結びに、本年が皆様にとりまして良き年となりますよう心から祈念し、新年のご挨拶といたします。

常務理事 南雲 芳幸

杉並区障害者自立生活者表彰 おめでとうございます！

令和3年12月5日（日）、勤労福祉会館・西荻地域区民センターで杉並区障害者自立生活者（区内で努力して自立した生活を営んでいる障害のある方）・自立支援功労者（障害のある方を長年にわたり支援し続けてきた協力者）の表彰式典が行われました。この催しは令和3年度杉並区障害者週間事業「ふれあいフェスタ2021」の中で行われ、計10名・1団体が表彰されました。

その中で、ワークサポート杉並の利用登録者・熱田竜一さんが**障害者自立生活者表彰**を受けられました。熱田さんは長きに渡り企業就労を経験し、現在は株式会社グリーンハウスで食器洗浄の仕事に励む一方、趣味のアニメ鑑賞を楽しむなど自立した生活が認められ、今回の表彰となりました。

他に表彰を受けられた皆様も含め、今日までの活動に敬意を表するとともに、末永いご活躍を心から願っております。



杉並区障害者雇用支援センター

令和4年の取り組みについて

皆様、新年おめでとうございます。

旧年中は、当センターの運営に多大なるご支援、ご協力をいただきましたことを厚く御礼申し上げますとともに、本年もよろしくお願い致します。

さて、令和2年より続いている新型コロナウイルスの影響が企業就労の場面でも見えています。令和3年度（令和3年12月現在）は6名の方が企業及び事業所に雇用されましたが、雇用先での仕事の内容に変化が見えています。企業におけるペーパーレス化が進み、シュレッダー業務や書類のPDF化、ファイリング、発送等の業務が減少していたところに、新型コロナウイルスの感染拡大によりテレワークが奨励され、紙を扱う業務の減少傾向に拍車がかかったことが上げられます。今後は、障害者の就労を進める上で、新しい業務の切り出しを企業と共に考えていく必要があります。

その他にも、飲食業への影響が大きく、社員の方を対象にした社内カフェにも縮小傾向が見られる中で、接客業を希望した訓練生とは新たな方向について話し合いました。

事務系の求人では、PCを使用するものが中心になる傾向が見えていますので、センターの訓練もPCスキルの向上を目指し委託訓練などをさらに活用し、集中的に取り組む機会を設けていきたいと思っています。また、昨年7月に導入したVR（バーチャル・リアリティ）を使用した社会性向上への取り組みは、訓練生から「分かりやすい」との感想をもらっていますので益々活用していきたいと思います。

最後になりましたが、本年は「キャリア教育」について今まで以上に取り組んでいきたいと思えます。そもそもキャリアとはどういうことか？ どのようにしてキャリアを積んでいくかなどを訓練生と職員と一緒に考え、より一層訓練への目的意識が持てるよう取り組んでまいります。

その他にも、職場開拓をはじめ訓練生の未来に繋がる取り組みを進めていきますので、引き続きのご支援よろしくお願い致します。

センター長 茂木 幹雄

知的障害の方の交流会を開催しました

令和3年11月28日、定着支援を受けながら就労している知的障害の方が集う交流会をワークサポート杉並の会議室で開催しました。今年度2回目の交流会でしたが、今回もコロナウイルスの感染対策として、朝、昼、夕方と3部制（各部17名）で行い、多くの方々にご参加いただきました。（マスク着用、手洗い、手指消毒、換気も徹底いたしました）

当日は座席の間隔を確保し、声を出さないプログラムとして「ジェスチャー伝言ゲーム」を2グループの対抗戦で行いました。お題が「ゴリラ」のチームはこぶしで胸をたくましく叩いたり「うさぎ」のチームは両手を頭にあてて動かしたり、ピョンピョン飛び跳ねたり。ジェスチャーが少しずつ変わっていく様子にドキドキする場面もあり、各部ともに盛り上がっていました。

クリスマスビンゴでは、提示されたクリスマス関係の言葉から9個を自分で選び、マスに書いてビンゴを競いました。「リーチ」「ビンゴ」と嬉しそうな声と笑顔があふれました。

皆さん笑顔で「楽しかった〜」「次もまた来ます」とおっしゃられる姿に、職員も元気をもらった一日でした。来年も工夫をこらしながら開催出来たらと思っています。



就職しました（9・10・11月）

一般事務 3名

清掃業務 2名

その他 3名

新しい職員が加わりました

支援員 海野職員（10月1日付入職）

写真については、ご本人の了解を得て掲載しています。